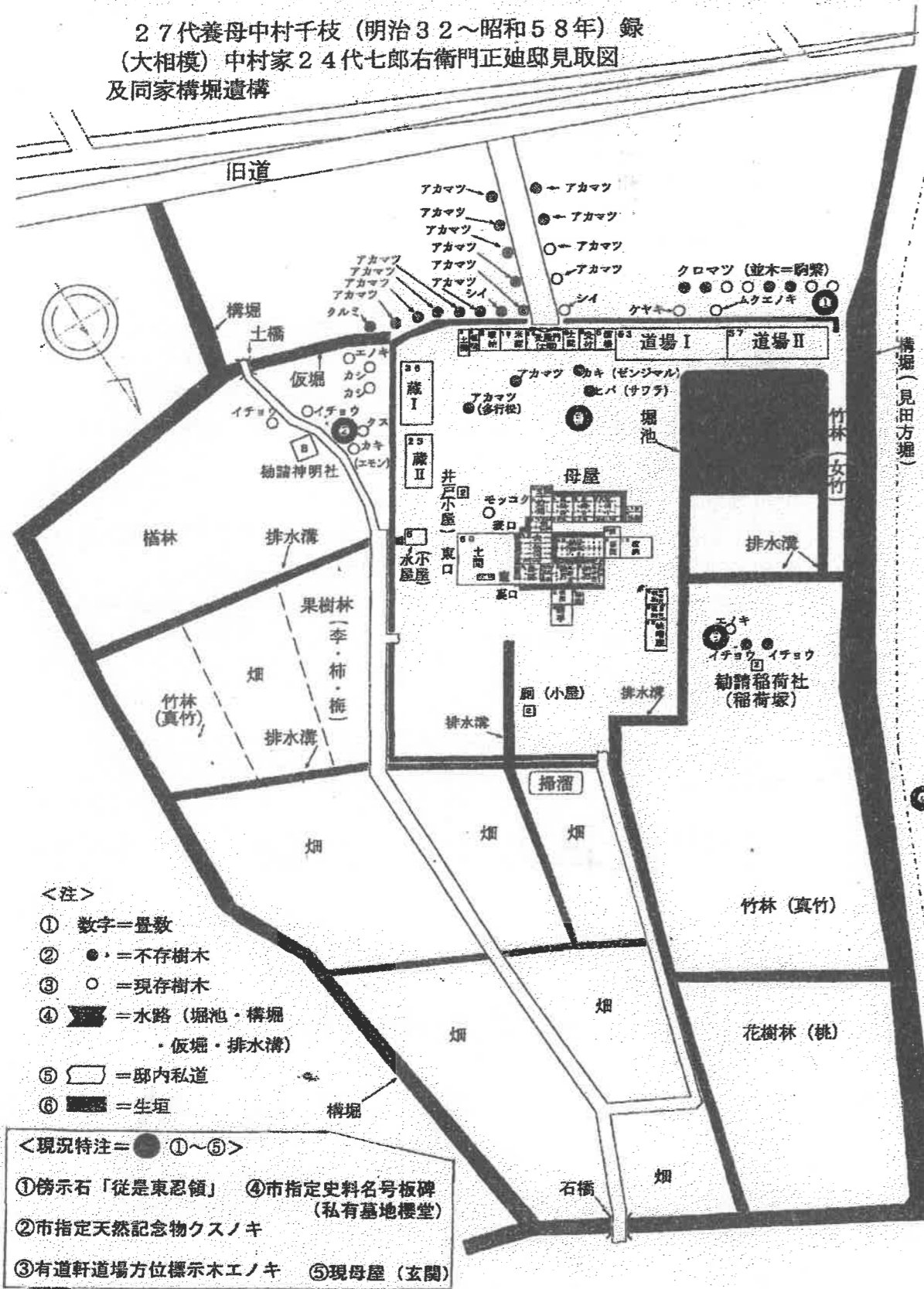


### 大相模氏（初代次郎能高）館跡<12世紀中頃定住>

27代養母中村千枝（明治32～昭和58年）録  
（大相模）中村家24代七郎右衛門正迪邸見取図  
及同家構堀遺構



「りせ」とは、国学者・平田篤胤の越谷出身の夫人・おりせにちなんで名付けました

# りせ

越谷市郷土研究会・会員だより・季刊版 No.11 (通巻 No.265)

NPO 法人 越谷市郷土研究会・発行 (令和3年3月1日)

〒343-0805 越谷市神明町1-73-1 (会長 渡邊 和照)

(TEL) 048-963-6436 (ホームページ) <http://koshigayahistory.org/>

## 【はじめに】

## 勝鬨橋

写真は、東京都中央区の隅田川に掛かる勝鬨橋で、昭和36年(1961)に築地から下流の東京湾方面を撮影したものです。橋は昭和15年(1940)に完成していて、船を通す為に中央部分が日に数回開いていました。

橋の左側は月島・晴海方面で、当時、月島は主に倉庫群、晴海は広大な広場になっていました。橋の右側は築地市場・銀座方面で、築地市場は都民の台所で魚屋をはじめ大勢の仕入人が出入りしていました。そして、橋には都電も通っていました。

写真中程の2隻の船は、「ダルマ船」と云って鋼材、石炭、砂利等を運んでいました。船内で生活して居る人々もいて、その子供達も近所の小学校に通学していました。そんな船を昭和20年~30年代には多く見ることができました。

橋は昭和45年(1970)末に開かなくなりました。とても残念です。今は、当時の名残りとして都電の軌道が橋に残っているだけです。

現在、月島はタワーマンション群、晴海は東京オリンピックの選手村マンション群となっ

ています。また、築地の市場は豊洲に移転し、その跡地はオリンピック関係者を輸送する車両基地となり、川辺は遊歩道に整備され景色の良い所になっています。近くには聖路加国際病院もあります。

東京オリンピックの後、勝鬨橋を囲む町の様子は又変わっていくと思います。

副会長 川端 孝夫



東京新聞掲載記事より

～りせ編集委員会より～

今回は、紙上にて「サロン中村古書画コレクション」をお楽しみいただきます。

## イベント開催状況（令和3年2月末現在）

### ◎ 史跡めぐり（令和2年度）

<中止>

3年1月 七福神めぐり

3月 行田市「忍城」

### ◎ 市内・史跡めぐり

<中止>

3年1月 新春の「花田地区の元荒川旧流路」を歩く

2月 梅の花咲く「日光道中」を歩く

### ◎ その他のイベント

<中止>

2年12月 第19回 こしがや産業フェスタ

3年 1月 第13回 協働フェスタ

1月 「観光、物産推進事業」歴史講座

「カスリーン台風と越谷の治水の歴史」

2月 令和2年度 こしがや文化芸術祭

2月 第1回 研究発表会

2月 お話会 「越谷市内の古刹を訪ねる」

2月～3月 新派つるし雛 in ななサポ ひなまつり

## 今後のイベント（日程は変更になる場合があります）

### 【3月】

#### ① こしがやクイズ（3月1日～）

◎開催：越谷市市民活動支援センター主催、問題の作成で当会が協力

◎テーマ：おうち時間を楽しもう！こしがやクイズ

◎場所：同センターHPにて「Web版こしがやクイズ」が公開されます

◎参加方法：同センターHP「観光・物産情報コーナー」をクリックすると、こしがやクイズのURLが表示されます。PCとスマホのどちらからでも回答でき、さらにその場で点数も分かります。

◎担当：クイズ編集委員会

#### ② 地誌研究倶楽部・巡検（11日：木、13：00～16：30）

◎地域：蒲生村の石仏と歴史・東部編

◎交通：徒歩

◎担当：加藤幸一顧問

#### ③ 地方文書研究クラブ・例会（15日：月、13：30～）

◎場所：越谷市市民活動支援センター・5階

#### ④ サロン 中村古書画コレクション・見学会（17日：水、13：00～）

◎場所：サロン 中村頴司 古書画コレクション

◎担当：加藤幸一顧問

#### ⑤ 市内・史跡めぐり（28日：日、）

◎地域：桜の花咲く「宮本町」を歩く

◎集合場所と時間：Aコース：午前8：30、「北越谷駅」西口集合  
Bコース：午前8：30、「越谷駅」東口集合

◎交通：徒歩

◎担当GL：秦野秀明常任幹事

### 【4月】

#### ① 地誌研究倶楽部・巡検（8日：木、13：00～16：30）

◎地域：蒲生村の石仏と歴史・日光街道（日光道中）編

◎交通：徒歩

◎担当：加藤幸一顧問

#### ② 市内・史跡めぐり（14日：水、）

◎地域：桜の花咲く「千疋屋」のふるさとを歩く

◎集合場所と時間：Aコース：午前8：30、  
「越谷レイクタウン駅」南口集合

Bコース：午前8：30、「吉川駅」南口集合

◎交通：徒歩

◎担当GL：秦野秀明常任幹事

③「がもう楽生塾」歴史講座（17日：土、10：00～12：00）

◎会場：蒲生地区センター

◎テーマ：知られざる越谷の歴史

◎講師：加藤幸一顧問

◎参加者：塾生希望者のみ

④地方文書研究クラブ・例会（19日：月、13：30～）

◎場所：越谷市市民活動支援センター・5階

⑤サロン 中村古書画コレクション・見学会（21日：水、13：00～）

◎場所：サロン 中村穎司 古書画コレクション

◎担当：加藤幸一顧問

## 【5月】

①荻島地区の文化財パトロール（5月～）

◎地域：荻島地区

◎担当：加藤幸一顧問

◎班長：A班：船岳理事、B班：大野幹事、C班：森田（喜）常任理事、  
D班：西島幹事長、E班：田端副会長、F班：川端副会長

②地誌研究倶楽部・巡検（13日：木、13：00～16：30）

◎地域：蒲生村の石仏と歴史・西部編

◎交通：徒歩

◎担当：加藤幸一顧問

③地方文書研究クラブ・例会（17日：月、13：30～）

◎場所：越谷市市民活動支援センター・5階

④サロン 中村古書画コレクション・見学会（19日：水、13：00～）

◎場所：サロン 中村穎司 古書画コレクション

◎担当：加藤幸一顧問

## 【6月】

①サロン 中村古書画コレクション・見学会（16日：水、13：00～）

◎場所：サロン 中村穎司 古書画コレクション

◎担当：加藤幸一顧問

②令和3年度 総会（午前）&講演会（\*\*）（20日：日の予定）

◎場所：「産業商工会館ホール」の予定

◎講演会テーマ：未定

◎講師：未定

③地方文書研究クラブ・例会（21日：月、13：30～）

◎場所：越谷市市民活動支援センター・5階

## 実行したイベント（12月～2月）

## 【12月】

①地方文書研究クラブ・例会（21日：月、13：30～）

◎場所：越谷市市民活動支援センター・5階

## 【1月】

①サロン 中村古書画コレクション・見学会（13日：水、13：00～）

◎場所：サロン 中村穎司 古書画コレクション

◎担当：加藤幸一顧問

②地方文書研究クラブ、リモート・ミニ講座（18日：月、13：30～）

◎場所：部員が自宅から参加

◎実施内容：学習文書「油長山崎家文書」

◎参加者：部員6名

## 【2月】

①地方文書研究クラブ、リモート・ミニ講座（15日：月、13：30～）

◎場所：部員が自宅から参加

◎実施内容：学習文書「油長山崎家文書」

◎参加者：部員6名

## 【会員の皆様へのお知らせ】

### ◆『野島浄山寺の本堂大改修』

現在の野島浄山寺の本堂は築158年を経過しました。永きに亘り風雪に耐えて参りましたが、本堂全体の老朽化が進み、特に屋根、屋根瓦の損傷が激しく、大雨、豪雨の時などには本堂に雨漏りが始まりました。

このままでは本堂全体が危険に陥ると判断され、令和2年9月12日から大規模な改修工事に入りました。先ず、本堂全体を持ち上げ土台全体をコンクリートに作り直しました。当然、本堂内の木造地藏菩薩立像、装飾品は安全な場所に移転しました。令和3年からは本堂の屋根、屋根瓦の葺き替えに入ります。改修工事は令和3年7月迄に完了するべく突貫工事が進められます。



新しくなった本堂にお地藏様がお戻りになり、8月24日のご開帳にお会いすることを楽しみにしております。

(写真は、廣濟堂ベストムック411号より)

### ◆会報『古志賀谷』第19号(1冊 1,000円)の購入申込み

只今、会報『古志賀谷』第19号製本版の申込みを受付けています。  
購入ご希望の方は、秦野 秀明 090-3319-3131 までご連絡願います。



### ◆当会事務所の一時的閉鎖

白鳥様方「八百喜参ノ蔵」内の当会事務所は、都合により一時閉鎖致します。(令和3年2月より)

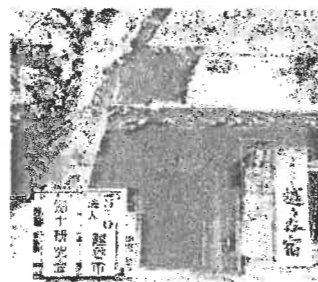
連絡先 〒343-0805 越谷市神明町1-73-1

会長 渡邊 和照

TEL 048-963-6436

ホームページ

<http://koshisayahistory.org/>



只今、留守にしております。



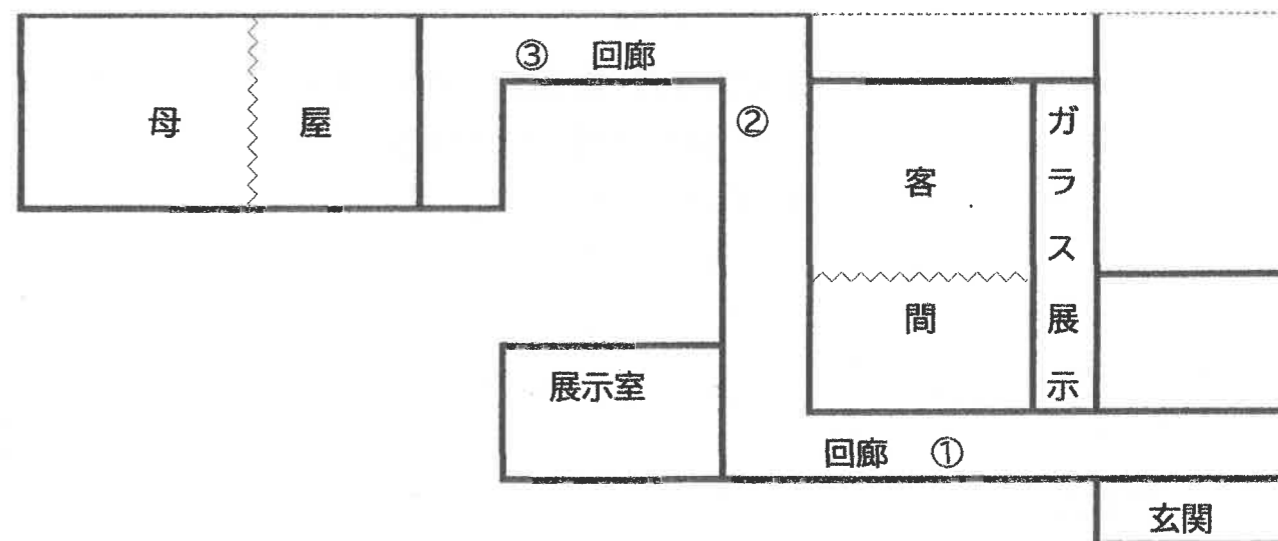
## サロン中村「古書画コレクション」を訪問して

関根 芳孝

十二月のある日、大相模の旧家、中村家の「古書画コレクション」を拝見する機会があり参加いたしました。

お邸に着くとお寒い中をご当主の穎司様<sup>えいし</sup>が外で待っていてくださいました。案内された玄関<sup>くつぬぎ</sup>に入ると大きな沓脱石が目につき、この家の格式を感じました。まずは応接室に通され、上品でもの静かな奥様から趣味のいいお茶碗に淹れられたおいしい煎茶と柿のお菓子をいただきました。そしてご主人から中村家の歴史や展示作品等のお話を伺いました。十二月の展示テーマは「家宝を掛けて師走を締め」であり、よいものを鑑賞できるちょうど良い機会に恵まれたものだと思います。ご主人のご案内でいよいよコレクション拝見に向かいました。

### サロン中村展示場概念図



(※本文説明のために便宜上、展示室と数字を記入しました)

## 母屋(おもや)

はじめに長い廊下をずっと奥に進み、母屋に案内されました。母屋は当主の居室ということで、静かで落ち着いた雰囲気(霧田気)の部屋です。十畳間にはどっしりとした床の間が設えてあり、能阿弥真能(のうあみさねよし)の「寒山拾得図」(かんざんじつとく)の双幅掛軸(そうぷく)と狩野永徳(かのう)の「猛虎之図」(まうこ)が目(め)を惹(ひ)きました。精緻(せいせい)で迫力(せきりき)があり、しかも時代(じだい)を感じ(か)させ、バランスよくぴたっと紙(かみ)の中に収(こ)まっている様子(ようす)が見事(けんじ)でした。寒山拾得(かんざんじつとく)は人物(にんぶつ)表現(ひょうげん)に面白(おもしろ)さがあり如何(いか)にも縁起(えんぎ)よさそうであり、猛虎(まうこ)はその力強(ちからづよ)さからなるほど魔除(まじり)けだなと感じました。

さらに長押(ながし)には橋本雅邦(がほんみやくに)の「松月図」(しょうげつ) (常設展示) や松濤(しょうとう) (まつなみ) (まづなみ) の扁額(へんがく)がかけられていました。ご主人(ごしゅじん)からは居室(くしつ)に清々(せいせい)しい松風(しょうふう)が渡(わた)るようにとの思い(おも)があると伺(き)いました。生活空間(せいかくかん)と題材(たいざい)の妙(たぎ)にいたく感心(かんしん)させられました。これらの他にも英一蝶(はなびさいちちよう)の画(ゑ)や大石良雄(おおいしりょうゆう)の書簡(しょかん)など聞いたことのある名前(な)が次々(つぎつぎ)に出てきました。

十畳間(じゅうじょうかん)と八畳間(はちじょうかん)を仕切(しきり)る襖(ふすま)に描(え)かれた、狩野梅雲(かのうばい雲)の「四季山水図」(しき山水図) (常設展示) は、襖(ふすま)一枚(まい)ごとに四(よ)つの季節(きせつ)の風景(ふうけい)を墨書(すみか)で豪快(ごうがい)に描(え)いてあり、とても見応(みおこ)えがありました。江戸初期(江戸初期)の越ヶ谷御殿(越ヶ谷御殿)江戸城移築(江戸城移築)工事に同行(どうぎょう)して御当(ごとう)家に逗留(とどま)した梅雲(ばい雲)が描(え)き残(のこ)したものだそうです。この襖(ふすま)の裏側(うらがわ)にも四宮松濤(しのみやしょうとう)の「四季花卉図」(しき花卉図)が四枚(よまい)に見事(けんじ)に描(え)かれてありました。

## 回廊

家屋(いえ)最奥(さいおく)の母屋(おもや)から戻(かえ)る形(かたち)になりますが、回廊(かいりやう)にもたくさんの扁額(へんがく)や掛軸(かかけ)がありました。③の近く(ちかく)の日本画(にほんゑ)は、明治以降(めいし以後)に活躍(かつやく)した木村武山(きむらたけさん)の「高砂図」(たかさご)でこれも目出(めで)たさの縁起(えんぎ)物(もの)。②の近辺(ちかばた)には、玄関(げんかん)から入(い)って来(き)た人(ひと)に対して、この先(まへ)は主人(しゅじん)の居室(くしつ)を示(し)す意味(いみ)で「雲竜図」(うんりゆう)「竹虎図」(たけこ)が守護神(しゆごじん)としてにらみ(にら)を利(き)かせていました。さらに戻(かえ)って玄関(げんかん)近く(ちかく)の①には「晴耕雨読軒」(せいこううどく) (常設) の書(か)が掛(か)けられています。その言葉(ことば)を表(あらわ)すような外連味(げれんみ)のないそして洗練(せんれん)された筆致(ひつし)にこの家(いへ)のご当主(ごとうしゅ)の姿(すがた)を感じる(か)るようでした。回廊(かいりやう)の長押(ながし)には多(おほ)くの書(か)の扁額(へんがく)が、また展示室(しやうしつ)近く(ちかく)の回廊(かいりやう)には、丸山応挙(おつきよ)などのいろい(いろい)ろな掛軸(かかけ)がきれいに並(なら)んで掛(か)けられていました。

## 客間

南側(みなみがわ)から六畳間(むつじょうかん)に入(い)ると室内(しやうない)の展示スペース(しやうし)の上(うへ)にた(た)くさんの資料(しやうり)料(りょう)、その先(まへ)には襖絵(たてゑ)、右側(みぎがわ)ガラス戸(がらすこ)の中には掛軸(かかけ)、左(ひだり)の長押(ながし)には扁額(へんがく)と作品(さくひん)の多(おほ)さに圧倒(あつた)されました。襖絵(たてゑ)は母屋(おもや)のもの(もの)と作者(さくしや)が同(おな)じ狩野梅雲(かのうばい雲)の作(さ)で、先(まへ)の豪快(ごうがい)な山水図(さんすいず)とは趣(おもむ)き違(ちが)う花(はな)の図(ず)でこれ(こ)れもまた見事(けんじ)でした。扁額(へんがく)「仁者必(じんしゃかならずゆうあり)有(あ)る勇(ゆう)」は草書(そうしょ)で書(か)かれていましたが少(すく)し見(み)ているうち(うち)に読(よ)むこと(こと)がで(で)き達成感(たっせいかん)？満足感(まんぞくかん)？で(で)した。ガラス戸(がらすこ)の中(なか)は十二支(じふにし)の動物(どうぶつ)を描(え)いた掛軸(かかけ)が二間(にかん)続(つ)きに飾(か)られていました。作者(さくしや)がそれ(それ)ぞれ違(ちが)っていて画風(がふう)は異(い)なりま(ま)すが、ど(ど)れも動物(どうぶつ)の特(とく)質(しつ)をよ(よ)く捉(と)えているよう(よう)に思(おも)いました。

十畳間(じゅうじょうかん)に入(い)ると中村家(なかむら)の家宝(けがた)のひとつ(ひとつ)だ(だ)という曾我蛇足(そがじゃそく)作(さく)と伝(つた)わる豪快(ごうがい)な「雲龍図」(うんりゆう)が目(め)につ(つ)きました。年(とし)の瀬(せ)の厄払(やくはら)いか新年(しんねん)を迎(むか)える縁起(えんぎ)もの(もの)か、大(おほ)きさ(さ)も相(あ)ま(ま)って龍(りゆう)の力強(ちからづよ)さが際立(さ)って見(み)えま(ま)した。振(ふ)り返(かえ)ると襖(ふすま)四枚(よまい)に太田蜀山人(おくだしよくさんじん)の狂歌(きやうか)。私(わたし)にはよ(よ)く読(よ)めま(ま)せんで(で)した(た)が間仕切(まじきり)全(ぜん)面(めん)を飾(か)る大(おほ)きな字(じ)の群(ぐん)れ(れ)はモダン(ど)なデ(デ)ザイン(ザイン)で、建(た)物(ぶつ)の装飾(さうじき)に変(へ)化(か)を与(あ)てて(て)いるよう(よう)に思(おも)いました。ほ(ほ)か(か)にも長押(ながし)など(など)に注(ちゅう)目(ぼく)すべき重宝(じゅうぼう)がた(た)くさん(さん)ありま(ま)した。

## 展示室

室内(しやうない)には多(おほ)くの掛軸(かかけ)が重(かさ)なる程(ほど)にありま(ま)した。森派(もりは)の猿(さる)図(ず)や岸派(きしは)の虎(こ)図(ず)など(など)も拝見(はいけん)しま(ま)したが、私(わたし)は伊藤若冲(いとうわかつゆう)の滑稽(げき)にも見(み)える鶏(けい)図(ず)を見(み)て、墨(すみ)色(いろ)で描(え)線(せん)も少(すく)ない(ない)が無駄(むだ)なく描(え)き切(き)っているよう(よう)に思(おも)いました。

今回(こんかい)拝見(はいけん)しただけ(だけ)でもすご(すご)い作品数(さくひんかず)で(で)した(た)が、ま(ま)だ展(しやう)示(し)しきれぬ程(ほど)の秀作(しゅうさく)が眠(ね)っているよう(よう)で全(ぜん)く驚(おど)きで(で)す。これ(こ)れら(ら)の文化財(ぶんかざい)が郷土(きやうど)に残(のこ)されたこと(こと)に感謝(かんしゃ)しつ(し)つ、多(おほ)くの人(ひと)がこ(こ)のコレクシ(コレクシ)ョン(ョン)を知(し)り、後世(こうせい)に残(のこ)してい(い)ければいい(いい)と思(おも)いました。

部外者(ぶがいしや)から見(み)れば有(あ)りな(な)書家(しやか)や絵師(えし)の作品(さくひん)が(が)お宝(たから)と思(おも)いがち(ち)で(で)すが、中村家(なかむら)にと(と)つ(つ)ての至宝(しつぽう)は、ご先祖様(ごせんぞさま)の労作(らうさく)され(さ)れた写経(しやきやう)や中村家(なかむら)旧(こ)霊簿(れいぼ) (母屋(おもや)展(しやう)示(し))、有(あ)道(どう)軒(けん)の神道無念流(しんどうむねんりゆう)目録(もくろく) (客間(きやくかん)展(しやう)示(し)) 等(とう)、御当(ごとう)家(か)九(く)百(ひゃく)年(ねん)の歴史(れきし)を連綿(れんめん)と繋(つな)いで(い)きたもの(もの)で(で)ない(ない)かと思(おも)いました。

最後(さいご)になりま(ま)したが、高邁(こうまい)なお心(こころ)で作品(さくひん)を管(かん)理(り)し、毎(まい)月(げつ)の展(しやう)示(し)替(か)えを続(つ)けて(て)いら(いら)っ(っ)しや(や)る中村(なかむら)頼(たの)司(し)様(さま)に心(こころ)から(ら)の敬(けい)意(い)を表(あらわ)したい(たい)と存(ぞん)じます。

## 「サロン中村古書画コレクション」を鑑賞して

大内 登



伝曾我蛇足(雲龍図)

越谷市大成町の自然豊かな地に古民家があります。そこが今話題の私設の郷土歴史資料館とも思われる「サロン中村古書画コレクション」です。古書画を634点所蔵し、中には文化財級のお宝もあります。

これらの展示品は、御当主ご自身の収集も合わせた「中村家」四代に及び200年間に渉るもので、「古書画」を中心としています。現在は中村家第二十七代目の御当主中村<sup>えいし</sup>穎司様のお屋敷です。

中村様曰く『サロン開設の由来は、人と人との偶然の“出会い”がもたらす、ささやかな“心”の交流として開設している。』とのことでした。

玄関を入り応接間に案内されると展示物の由来について説明をいただきました。次の客間が展示コーナーです。回廊、母屋の各室にそれぞれの年代の美術品などが所狭しと展示されていました。長きに亘り、歴史的にそして貴重な古美術等を整理保存されてきたことに対し、ただただ敬服するばかりでした。

余談ですが、展示品の中で特に興味を感じたのは、画家であり医者<sup>いしや</sup>の渡辺華山の絵画です。本名は渡辺登(のぼる)ですね。そして、私は男5人兄弟の中で、一人だけ父親の「利」の名を貰っていないのです。父は渡辺華山を崇拝していたようで、私たち兄弟はその伝説を良く聞かされていました。その華山の名を貰って私の名に付けてくれたようです。

さて、私が越谷に住んでから28年になります。「サロン中村古書画コレクション」を見学することができ、越谷市内には貴重な文化財産や歴史的にも価値ある資料等が数多くあるように思われます。

越谷市は、昭和40年代中頃から急速に都市化が進んできました。国道4号線にバイパスが走り、JR南越谷駅ができ、そして東武鉄道には日比谷線

が乗り入れました。現在でも新しく住宅が増え続けています。古い住宅は建替えられてきています。その中で、古い民家には現在の人々には理解ができないと思われる財産が沢山存在しているものと推測されます。これらの宝物を次世代に引き継がれるようにするのが、今の私共の役目だと思っています。

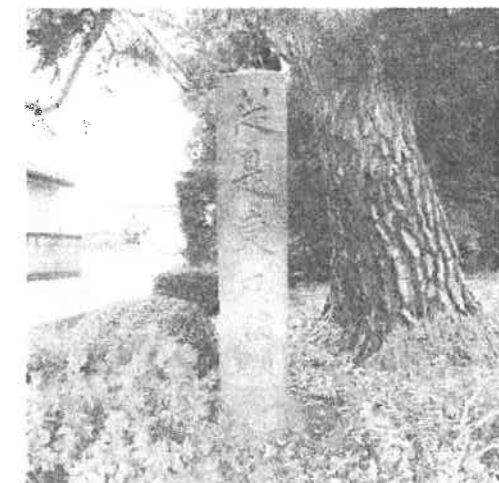
私は、越谷の由来を少しでも多く知りたいと思い、NPO法人越谷市郷土研究会に入りました。開催されるイベントに参加して見聞を広めることができました。

ここ「サロン中村古書画コレクション」は、平成14年から開設されています。機会があつて2020年12月と21年1月に見学することができました。本当に素晴らしく、貴重な文化財産です。感激でした。是非、多くの皆さんにこの宝物を鑑賞していただきたいと思います。如何でしょうか。

越谷市は、郷土の歴史文化を後世に引き継ぐためにも、早期に歴史資料館を整備し、開設されることを期待しています。

終わりに、「サロン中村古書画コレクション」を開設されている中村御夫妻のご健勝を祈念し、見学できましたことに感謝いたします。

有難うございました。



【是より東、忍領】

中村家の南西角にある「忍領<sup>おしりょうぼうじせき</sup>傍示石」

石塔の絵(右上)は、石仏調査集の「大相模地区の石仏」の東方7より引用

7

忍領<sup>おしりょうぼうじせき</sup>傍示石

中村家大成町

一語傍

元禄年間(1700年頃)

平安時代の末頃、現在の地に岩槻から移ってきて  
大相模氏と名乗り住み始めたとされる**越谷市内最古の名家**  
**「中村家の家系図」**及び**「特筆すべき史実の一端」**について

投稿 坂本誠一郎

今般、編集委員会より感想投稿のご案内を頂戴しました。

私は、去る平成21年～22年頃約1年半余り、また令和2年2月～令和3年1月までの1年間、月に1度「サロン中村古書画コレクション」に通わせて頂いています。

著名な方・歴史上の偉大な人物の『書』や大家の画家達の『絵画』を拝見できることは、誠に貴重な体験で、将に「温故知新」、今まで知らなかったことが、目の当たりに、かつ生来始めて見聞きする事が出来、毎月楽しみにしております。今後も可能な限り、引き続いて通わせて頂きたいと存じています。

★余談ですが「温故知新は、私的には【①知真 ②知深 ③知伸 ④知親 ⑤はたまた知古】であり、限りなく「未知を知る糧」に結び付けたいと常々考えています。

実は私の毎月の訪問には、「古書画以外」にもう一つの大きな楽しみがございます。

それは、越谷に移り住まわれてから1000年の悠久たる歴史を有し、輝かしき家系をもたれ、何と申しても幾多の困難を乗り越えて同一の場所に住み続けて今日に至っている極めて数少ない家系、中村家の多岐かつ実に興味ある史実をお聞きしつつ、越谷の変遷についての思いを巡らし感慨に浸ることです。

古から一千年間、連綿と続く地に存する中村家大邸宅で、かつ「名立たる古書画」を拝見できますことは、一言では語り尽くせないものでございます。

私としましては訪問の感想に変えて、これまでサロンに未参加の方に一層のご関心を向けて頂きたく、上述期間で私の知り得た範囲ですが、「中村家の家系図」及び「特筆すべき史実の一端」について幾つか列挙してご案内をさせて頂きましたら望外の喜びであります。

1.「中村家のお名前」は、越谷市のホームページ(以下HP)「越谷市の歴史年表」に表記されています。一部を抜粋表記しました。

越谷市の歴史 年表(古代～近代)

★下段、太字部分は投稿者が一部補足のもので

6世紀後半		見田方(大成町)に古墳時代後期の集落がつくられ、人々の生活が営まれるようになった
645	大化元	大化の改新が始まり、天皇を中心とした律令制による統一国家が樹立されていく
750	天平勝宝2	大相模不動坊(相模町大聖寺)が創建されたと伝える

771	宝亀2	武蔵国は東山道より東海道に編入される。以来奥州海道、甲州海道など海道と称された
860	貞観2	野島に天台宗慈福寺(現在の曹洞宗浄山寺)が創建されたと伝える
939	天慶2	平将門(★中村家の始祖・桓武天皇から教えて5代目・平良文の甥)、王城を建設、新皇と称した
1034	長元7	大沢(現在の北越谷)の浅間社が勧請されたと伝える
1040～	長久・寛徳年間	野与党の一族古志賀谷二郎為基や大相模二郎能高(★大相模氏・中村家祖先)が越谷に定住 野与党の氏神 久伊豆宮(★旧、東方村の久伊豆神社のことで、越ヶ谷所在の神社ではありません)を祀ったと伝える

以下の項は、省略(市のHPをご参照願います)

2.『中村家の家系図』について

★『中村家(中村先生)から頂戴しましたパンフレット』及び『郷土研究会 高崎 力先生の講座資料』に基づき纏めました。別紙①をご参照願います。

<P15>

3.中村家の南西の角地に建立された「忍領傍示石と中村家」について

郷土研究会加藤先生の『大相模地区石仏調査』別紙③ 及び 高崎先生資料P15屋敷図並びに『中村家屋敷図・大相模氏(初代次郎能高)館跡』別紙④をご参照願います。

<P20>

高崎先生の資料P14の大相模氏・中村家系図(全員の没年表示一覧表)に基づく坂本の判断では、「大相模氏第16代の御代」に建立と推察しました。

4.越谷市指定の「中村家の文化財」について

①有形文化財・天然記念物 「中村家のクスノキ」

★指定時樹齢は、「300年以上」の由にて、「大相模氏第13～15代頃の御代」の植樹と推察。

②有形文化財・考古資料 「文和3年 六字名号板碑」

高崎先生資料P14によれば、「大相模氏第7代御代」の建立と推察しました。

出典は越谷市HPの「指定文化財」です。②項につきましては、加藤先生の『石仏調査』別紙③をご参照願います。

<P18>

5.東方村の久伊豆神社の勧請について

越谷市の歴史年表には、「寛徳年間(1044年～46年)に野与党の氏神久伊豆宮を祀ったと伝える」と記載されています。

加藤先生の「石仏調査」別紙③には、『この地の久伊豆神社は、東方村鎮守で、古くは大相模郷の総鎮守であったと伝えられています』と表記されています。また、明治31年11月建立の石碑「浅間神社文字塔」に中村氏の氏名が刻まれております。

## 6. 中村家に伝わる「越ヶ谷御殿」との関りについて

越ヶ谷御殿につきましては、江戸時代振袖火事の後、江戸城二の丸へ移されたことは、研究会の皆様は既にご承知の史実でございます。こちら大相模氏・現中村家には、次記の言い伝えがあり、派遣された絵師の作品が残っております。

①越ヶ谷御殿の江戸城移築工事に絡み、江戸城移築工事に同行、ご当家(中村家)に逗留したと思われる幕府より派遣の表絵師・狩野梅雲(築地小田原町家の「若手」絵師で、後の表絵師=柴金杉片町家の開祖)が御殿内を描写されたと判断されています。

②当 現・中村家には、上述狩野梅雲の作品 『①四季山水図 ②四季花器挿花図』が所蔵されています。

## 7. 屋敷全体図・構え堀図について

前述別紙④の『中村家屋敷図・大相模氏(初代次郎能高)館跡』を参照願います。<P20>

## 8. 今回の投稿に際して活用させて頂きました出典諸資料

### (1) 中村家及び「サロン中村古書画コレクション」の関係資料

- ①中村先生より頂戴した「中村家資料パンフレット」
- ②パンフレット『サロン 中村古書画コレクション』
- ③『サロン 中村古書画コレクション』インターネット上のHP
- ④月次配布の説明資料
- ⑤展示説明パネル

### (2) 越谷市のホームページ

- ①越谷市のHP『越谷市の歴史年表』
- ②越谷市のHP『越谷市の指定文化財』
- ③越谷市教育委員会編 パンフレット『こしがやの文化財』

### (3) 越谷市郷土研究会、高崎 力先生の『講演会資料』

「越谷市郷土研究会のHP」-「研究報告」-「作成者:高崎 力」-「高崎力作品集」-「越谷における中世の城館跡」-「P10~P16の『大相模氏館(現、中村家)』

### (4) 越谷市郷土研究会、加藤幸一先生の資料

- 大相模地区の石仏調査
- ①「忍領傍示石」
  - ②市指定文化財「文和3年 六字名号板碑」
  - ③東方村・久伊豆神社内の「浅間神社文字塔」

## 中村家の家系図 『桓武天皇～桓武平氏』・「野与党、大相模氏・中村家の家系図」

上段の数値は、桓武天皇から数えた代を表記

下段の数値(★n)は、大相模氏・中村家での代を表記

- ①桓武天皇(第50代天皇・在位781年～806年)――②葛原親王――③高見王――④高望王(桓武平氏の祖)――⑤平 良文・坂東諸平氏祖――
- ⑥忠頼――⑦胤宗・野与党祖――⑧元宗――⑨基永・野与――⑩経長――⑪経光(箕勾)――⑫経能(箕勾)――⑬能高次郎(大相模氏・初代 越谷定住開始)――(★11[初]代)
- ⑭能忠二郎(兵衛の尉=承久の乱にて勲功・北条家紋を授かる)――⑮――⑯――⑰――⑱――⑲――⑳――㉑――㉒――㉓――㉔――㉕――㉖――㉗――(★2代)
- ㉘(大相模姓結ひ)――㉙(中村家へ改称)――㉚――㉛――㉜――㉝――㉞(泉田方村名主・宇田家と縁組)――㉟(万五郎政敏(神道無念流 有道軒一世)――(★16代)「忍領傍示石」建立?(★17代)
- ㊱(七郎右衛門正通(有道軒二世)――㊲重太郎(明治35年～昭和14年・大相模村村長)――㊳(ご尊父(壽馬ひさま様)――㊴(ご尊父(壽馬ひさま様)――㊵(ご尊父(壽馬ひさま様)――㊶(ご尊父(壽馬ひさま様)――㊷(ご尊父(壽馬ひさま様)――㊸(ご尊父(壽馬ひさま様)――㊹(ご尊父(壽馬ひさま様)――㊺(ご尊父(壽馬ひさま様)――㊻(ご尊父(壽馬ひさま様)――㊼(ご尊父(壽馬ひさま様)――㊽(ご尊父(壽馬ひさま様)――㊾(ご尊父(壽馬ひさま様)――㊿(ご尊父(壽馬ひさま様)――(★26代)
- ㊿(ご尊父(壽馬ひさま様)――(★27代)

(注)第⑮～第⑳代のお名前は、下名としましては目下未確認です。(申し訳ございませんがご了承願います) 大相模家・中村家全員の過去帳の存在は、何度もお聞きしていますが、お名前は未確認の状況です。

尚、高崎先生の資料(P14)では、大相模氏・初代から26代まで全員の没年が明記。(本表にて時系列の年代が推測可能かと存じます)

### 平家の主要部分に関わる家系図の抜粋付記【第⑤代、良文の御代における分岐家系図】

上述の ⑤平 良文・坂東諸平氏祖――⑥忠頼――⑦胤宗・野与党祖――⑧元宗――⑨基永・野与――⑩経長――⑪経光(箕勾)――⑫経能(箕勾)――⑬能高次郎(大相模氏・初代)――⑭能忠二郎(兵衛の尉=承久の乱にて勲功・北条家紋を授かる)――⑮――⑯――⑰――⑱――⑲――⑳――㉑――㉒――㉓――㉔――㉕――㉖――㉗――(★大相模・初代)

⑤平 良文兄弟の「⑤良将」――⑥将門(平 将門)・( ～ 天慶3・940年)

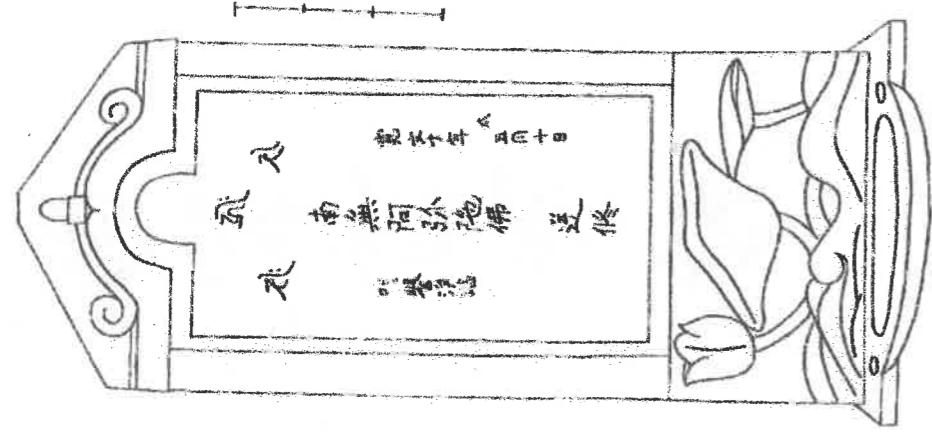
(※平 高望の三男(あるいは四男))

⑤平 良文兄弟の「⑤良望(国香)」――⑥卓盛(平 将門と戦った人物)――⑦――⑧忠盛――⑨清盛(平 清盛)――⑩重盛(平 清盛)――⑪重盛(平 清盛)――⑫重盛(平 清盛)――⑬重盛(平 清盛)――⑭重盛(平 清盛)――⑮重盛(平 清盛)――⑯重盛(平 清盛)――⑰重盛(平 清盛)――⑱重盛(平 清盛)――⑲重盛(平 清盛)――⑳重盛(平 清盛)――㉑重盛(平 清盛)――㉒重盛(平 清盛)――㉓重盛(平 清盛)――㉔重盛(平 清盛)――㉕重盛(平 清盛)――㉖重盛(平 清盛)――㉗重盛(平 清盛)――㉘重盛(平 清盛)――㉙重盛(平 清盛)――㉚重盛(平 清盛)――㉛重盛(平 清盛)――㉜重盛(平 清盛)――㉝重盛(平 清盛)――㉞重盛(平 清盛)――㉟重盛(平 清盛)――㊱重盛(平 清盛)――㊲重盛(平 清盛)――㊳重盛(平 清盛)――㊴重盛(平 清盛)――㊵重盛(平 清盛)――㊶重盛(平 清盛)――㊷重盛(平 清盛)――㊸重盛(平 清盛)――㊹重盛(平 清盛)――㊺重盛(平 清盛)――㊻重盛(平 清盛)――㊼重盛(平 清盛)――㊽重盛(平 清盛)――㊾重盛(平 清盛)――㊿重盛(平 清盛)





5. 東方 板碑型名号塔



桜堂墓地

寛文10 (1670)

〔参考〕六字名号板碑  
所在地 東方・桜堂墓地 (北東向き・高さは中)  
年号 文和三年 (二三五四)  
〔正面〕

南無阿弥陀仏 (蓮台)  
文和二年  
正月三日

※かつては「西の中村家」の敷地内にあつて、代々伝わってきた板碑である。「文和二年」と刻まれているが、干支は「午」となっている。午年は翌年の文和三年である。干支の方は間違つていないと思うので、干支の方が正しい可能性があり、この板碑の建立年は 文和三年と推定できる。墓地入口には、越谷市教育委員会の解説板がある。「内」は、加藤が加筆。

越谷市指定 有形文化財 考古資料  
文和三年十八字名号板碑  
昭和四十七年十月二十五日指定  
六字名号板碑は、「南無阿弥陀仏」の文字が刻まれた供養板碑である。通流の優雅な書体で、文和三年 (二三五四) 正月吉日の銘〔筆者注：「文和二年 正月三日」の銘〕がある。高さ八五センチ、幅二三センチで完全な形で残されている。この種のもは、浄土真宗や時宗系の称名念仏衆徒によって建立されることが多いといわれ、宗教活動の一端をになうことができるとされている。なお、この板碑は武蔵七党のうち野与党の一族大相模次郎能高の後裔といわれる中村家に伝わるものである。  
平成十四年三月 越谷市教育委員会

※板碑はその他にも六基ほどあり、合計七基ほどが横一列に並んでいる。

旧東方村の石仏

(1) 久伊豆神社

この地の久伊豆神社は、東方村の鎮守である。古くは、大相模郷の総鎮守であつたと伝えられている。

〔参考〕「浅間神社」文字塔 (『越谷市金石資料集』浅間六番)  
所在地 東方・久伊豆神社

石塔型式 自然石 (東向き・高さは高)  
年号 明治三十二年 (一八九八)

〔正面〕

(日) 明治三十二年二月  
(山) 浅間神社  
(月) 中村氏

※「中村氏」とは、大成町二一三三一一の中村家をさす。

※本殿の西側にある小山に「浅間神社」と「登山記念」の二つの碑が立っている。東方領分に属していた浅間社から移転してきたものである。

明治四十一年の神社併合令をきっかけに浅間社をこの地の久伊豆神社に合祀した頃のことであろう。

その浅間社があつた地は、現在の大成町八一三九二の「ススセイ」(旧見田方村に属する) の東方五十メートルあたりが見田方村と東方村の村境であり、その境に接した東方村側にある小山である。

※本殿裏側の地に、裏面に「昭和十三年四月建之」と刻まれた高さが七〇センチの「水神宮」文字塔がある。

表面には「水神宮 林氏」と刻まれている。

東方

〔参考〕

「浅間神社」文字塔

久伊豆神社



明治31 (1898)